



【入選作品】がんと向き合う夫婦の絆 ～病気と向き合う中で、夫婦の絆が深まった～

ある日、一人の女性ががん保険の相談で来店されました。

すでに死亡保険と医療保険には加入されているとのことでしたが、がん保障を手厚くしたいと考えておられました。

表情が少し沈んでいるように感じたため、きっかけをお伺いすると、ご主人ががんと診断され、現在入院中であることを涙ながらに話してくださいました。

ステージも進行しており、これから本格的な治療が始まるとのことでした。

ご主人も死亡保険と医療保険には加入されていましたが、がん保険は1年更新型のもので、保障内容が十分ではなかったそうです。

ご自身はすでに加入が難しいため、せめて奥さまだけでもしっかり備えてほしい——そんな思いから、奥さまに保険加入を勧められたとのことでした。

現在の保険内容を分析し、保障の不足部分を確認したうえで、奥さまに最適ながん保険をご提案させていただきました。

2回目以降の相談には、ご主人も同席され、夫婦で一緒に保険について真剣に考えておられました。

ご夫婦は17年前に保険に加入されており、ご主人は7年前にもがん保険の相談に行かれたそうですが、出張などの多忙な仕事のため、相談だけで終わってしまったとのこと。

「なぜあの時、加入しておかなかったのか」と悔やまれていました。

だからこそ、今回は奥さまの保険についてしっかりと向き合いたい——その強いお気持ちが伝わってきました。

数回の相談を重ね、ご夫婦で納得のいくプランでお申し込みいただくことができました。

ある日、ご主人が一人で来店されたことがありました。

「奥さんにこき使われて、これを聞いてこいって言われたんです」と笑いながら話されていましたが、その後、ふと真剣な表情でこうおっしゃいました。

「こうして仕事を与えることで、病気のことばかり考えなくてもいいようになってくれるんだと思います。」

その言葉に、ご夫婦の深い絆と、互いを思いやる気持ちが込められているのを感じました。

保険の相談を通して、人生の大切なパートナーとの関係を見つめ直す時間にもなったように思います。